

# 難波田城だより

2015 秋

65号

編集・発行

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

NEWS from NANBATAJO

富士見市立難波田城資料館

## 南畑村片隅の今昔物語

市民学芸員 野村 富雄

昭和16年(1941)、学校の名称が小学校から国民学校へ変わり、その年に入学した。1年生の2～3割はまだ着物で通学、私も<sup>かすり</sup>緋の着物を着て通った。

12月8日「米英を相手に戦争に突入した」というラジオ放送を全校生徒が校庭で聞く。

このころ、現在の富士見市の中でも電気が通じずにランプの生活をしていたところが何か所かあった。その中の一か所が私の生まれ育った南畑村字<sup>ひびぎ</sup>蛇木とその隣の鶴瀬村字<sup>そりまち</sup>反町で、送電線を延ばすための銅

が軍用に化けて、石油ランプを灯し続けることを余儀なくされた。隣の下田までは電灯の明るい夜に対して、暗いランプ灯りで、しかもガラスのホヤの掃除を日課とするが、灯油の質が悪いので、ホヤはすぐに<sup>すす</sup>煤けて、黒くなり暗くなるから使用の途中にも掃除をしなければならぬ。



石油ランプ

戦争色が濃くなると「欲しがりません、勝つまでは」と洗脳されて、農家でも使用中の農機具以外の鉄製品は供出の対象となり、檀家のお寺さんでも鐘や<sup>かねへん</sup>金偏のつく仏具は供出させられた。

そのうち、新河岸川に架かる南畑橋も欄干をはじめ、鉄製のものはすべて軍用品として持ち去られ、残ったものはコンクリートの橋脚だけとなった。橋は再び杉丸太を並べ、その上に杉皮を敷き、砂利を置いて、開通するが、丸太の耐久性も悪く折れて穴があく。川面が見えてこわい。でも通学のためには渡る。

戦争の激しさが増すと、マッチも配給制、更に代用品として「付木<sup>つけぎ</sup>」となる。ランプ用の灯油の配給も一か月でたったの一升(1.8リットル)。普通に使う

と3～4日分。そのころになると学校にも軍隊が入り、教員室は隊長の部屋と変わり、一棟は軍隊用となる。新河岸川の土手で機関銃の訓練、空襲警報のサイレンが鳴ると隊(学校)に戻る。

B29爆撃機も最初のころは高度1万1000メートル以上で飛来したが、高射砲の弾が届かないと解ると次第に高度を下げ6000メートル前後まで下げ機体もはっきりと解る。P51艦載戦闘機(ムスタング)は低空飛行で何度も撃つ「スズメバチ」のような存在。野良に出ているとき遭遇すると近くの桑畑の中に隠れているのが最も安全。

現在の市立体育館と下田の交差点との間の田に数発の爆弾が投下された。その寸前に無数の照明弾が落下し真昼以上にまぶしい白色の光に驚く。

爆弾は破裂音と地響きの大きさにびっくり。朝、見に行くと家は傾き、田には直径10メートル位の深い穴が等間隔であいていた。

戦後この爆弾による穴は、池となり多くの魚が集まるので、子ども達は池の水を抜き魚をとる「カイボリ」をして楽しんだ。ランプの生活を送っていたところにも電気がついた。40ワットと60ワットの電球の灯がまぶしく、不夜城に住んだようで嬉しかった。



市内におちた爆弾の破片

市民学芸員のページ \*このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

古民家シリーズ② 『神棚』

古来、神々と人々が同居している家が伝統的な日本の家であるといわれてきました。旧大澤家・旧金子家住宅には、最近の住宅では少なくなつた屋内神を祀る「神棚」があります。

旧大澤家には土間に入つてすぐ左側のオモテザシキに「大神宮」、カマドの近くに「竈神」、その左側オカッテとオンナベヤの入口に「エビス・大黒様」の神棚があります。旧金子家には、土間に入つてすぐ右側のザシキ(板の間)に大神宮の神棚があります。神棚は鴨居に吊つた棚の上に木製の祠を置いて、その中に神札を納めるようになっていきます(現在は公共施設なので納めていません)。大神宮は伊勢皇大神宮の祭神、天照大御神の天の恵みと氏神様(阿蘇神社・氷川神社など)の恵みが得られるよう神札を祀ります。竈神は、荒神様・オカマサマなどと呼ばれた火伏の神、農作業の神、家族の守護神として、エビス・大黒様は七福神として知られる福の神で、農家では農業の神として祀られています。

古民家見学の際は、ぜひ確かめてください。(稲植保美)

参考文献 富士見市史通史編下巻

資料館企画展図録「草屋根の年中行事」



旧金子家住宅神棚



旧大澤家住宅神棚 (オモテザシキ)

おもしろ・なつかし体験④ 公園まつり武者行列

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

6月7日に、難波田城公園まつりのメインイベント「火縄銃演武」の武者行列に初参加し、生まれて初めて「甲冑」を身に着けました。

重さ約 20 キロの本物の甲冑を着ると身動きが緩慢になり、わらじ履きで南畑八幡神社と難波田城公園間の往復行進は結構身に堪えました。ただ公園での見物客の大きな拍手と声援には感激しました。火縄銃演武は富士見市長が大将となり総勢 21 名(火縄銃隊 11 名、隊士：市民学芸員 5 名・一般市民 1 名、大将等 4 名)でした。演武終了後の記念写真コーナーでは市民学芸員隊士 5 名と一

緒に写真撮影をする見物客が後を絶たず、ヒーローになった気分でした。

南畑八幡神社に戻り、甲冑を脱いだ時の解放感と身軽さは何とも言えない心地よい気持ちでした。来年も参加する?と問われたら、回答は「機会があれば参加したい」です。

当日は天候に恵まれ、大勢の見物客が訪れ大盛況でした。(鈴木栄一)



市民学芸員隊士(5名)、大将(市長)とともに

## 人の創ったもの★人の使ったもの

### 残し伝える戦争体験

#### 戦争体験を残す

戦争体験とは、戦時下における戦地または銃後での体験といえます。そして戦争体験記は、数年間のさまざまな体験の一部のみを文章としてまとめたものです。戦争体験記を読むときは、その時に書かなかったこと、書けなかったこともあることを留意する必要があります。ある個人の戦争体験と戦争体験記は必ずしも同一のものではないのです。

#### 残された戦争体験

昭和 30 年代まで戦争体験は戦地や外地での体験を国内にいた人に伝えるものでした。戦争を知らない世代が増えていくにしたがい、戦争体験を記録し残すことが盛んになります。そして昭和 45 年(1970)前後には、特に空襲による戦災を記録する運動が全国的に展開します。これにより、銃後そして女性の体験も戦争体験として扱われるようになります。この動きをうけて 46 年(1971)、町内の図書館の活動から富士見で初の戦争体験集である「おかあさんの戦争体験」が発行されます。それ以降、体験集の発行が続きますが、公民館やそこを拠点にして活動する団体が発行したものが多くを占めます。また公民館

#### 戦争体験記録文集

編者または発行者	刊年	タイトル
富士見町教育委員会	1971	おかあさんの戦争体験
南畑公民館	1975	おとしよりのせんそうたいけん
富士見市	1975	市民の戦争体験
富士見市	1981	市民の戦争体験Ⅱ
水谷東高齢者学院	1986	あすなろ第三集「私の戦争体験」
富士見市ほか	1986	平和を願い戦争体験を語りつく文集
鶴瀬公民館	1986	第一回つるせ平和展の記録
鶴瀬学級	1989	わたしの戦争体験
水谷公民館	1994	戦争体験を綴る
南畑公民館	1995	戦争体験 その時わたしは
富士見市教育委員会	1996	平和を願う
富士見市教育委員会	2003	戦争体験文集

#### 広報誌に掲載された戦争体験(連載されたもの)

水谷公民館だより	「国際平和年 私の40年」(1986.2~1987.4) 「私の45年前」(1990.8~1991.3)
水谷東公民館だより	「終戦五〇周年記念特集」 (1995.1~1995.8)
ふじみ社会教育だより	「戦争を知らないあなたへ」 (1995.6~1996.3)
広報ふじみ	「富士見市非核平和都市宣言から10年 語り継ぐ私の戦争体験」(1997.4~1998.3)

このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介し、今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



だよりでも戦争体験記が連載されます。これは当時、富士見において社会教育が盛んだったためです。全国的な記録を残そうという潮流と、その受け皿となる社会教育の動き、これが富士見市で多くの戦争体験記が残された一因と考えられます。

戦争体験の多くは終戦三十年などの節目の年に発行、連載されています。また内容はこの地域と戦地での体験に加え、全国各地や「満州」など外地のものがあります。これは戦後、富士見市に多くの人口流入があったことのあらわれといえます。そして近年は、戦争体験者の高齢化が著しく進んでいます。それに従い戦争体験の内容もまた変化しています。戦場での体験は少なくなり、学童疎開など子どもの時の体験が中心になりつつあります。

#### 戦争体験を伝える

戦争体験記が残される過程で、さらに多様な形で戦争の悲惨さを伝え、平和を祈念する動きが起こっています。例えば、佐々木文江氏を中心とした「平和かるた」の製作があります。この動きは後に「平和の鐘」建立へつながります。また戦後五十年を機に証言ビデオの作成も行われるようになりました。その他に、関口たつき氏などは市内で発表した戦争体験記を単行本にまとめています。このように様々な形で戦争体験が伝えられています（『おばあちゃんが語る戦争の話』文芸社）。

戦争を知らない私たちが戦争の実態を伝えていくには、当時を知る方の戦争体験を記録していくこと、そして、これまで記録されてきた戦争体験を十分に活用していくことが求められています。

(田ノ上和宏)

お祭り来てね!



# \*\*秋のイベント予定\*\*

## 秋のなんばったまつり

開園 15 周年記念イベントです。  
 とき/10 月 17 日(土)午前 10 時～午後 3 時  
 会場/古民家ゾーン  
 内容/なんばった仮装コンテスト(午後 1 時～1 時 30 分)、古民家コンサート(午後 1 時 40 分～2 時 20 分。アンサンブル・ラ・レゾナンスによるクラリネット演奏)、昔体験・実演(午前 10 時～午後 1 時。はたおり体験、竹細工実演、紙芝居、拓本体験、かるた、昔あそびなど)  
 参加費/無料  
 主催/秋のなんばったまつり実行委員会

### ●企画展情報

#### 平成 27 年秋季企画展「開館 15 周年作品展」

資料館で活動する各団体の作品や、資料館のイベントによる作品を展示します。伝統的な手技の競演をお楽しみください。

会期/10 月 17 日(土)～1 月 11 日(祝)  
 会場/特別展示室

#### 穀蔵テーマ展示「70 年前に戦争があった」

市内の戦争被害や戦時下の暮らし、戦争体験などの資料を展示します。

会期/8 月 8 日(土)から約 1 年間  
 会場/穀蔵展示室

### ●ふるさと体験「お月見だんごづくり」

とき/9 月 12 日(土)午前 10 時～正午  
 定員/8 組(申込み順) 参加費/1 組 500 円  
 持ち物/エプロン、三角巾、持ち帰り容器  
 会場/旧金子家住宅  
 申込み/9 月 1 日(火)～9 月 6 日(日)に電話で  
 指導/市民学芸員

### ●第 25 回ふるさと探訪

#### 六道の辻から旧街道を歩く

旧大井町を中心に、河岸場への道や川越街道などの古道をめぐる。

とき/10 月 3 日(土)午前 9 時 30 分～午後 3 時

集合場所/上福岡駅西口駅前  
 定員/30 人(申込順)  
 参加費/500 円(保険料ほか。当日徴収)  
 持ち物/昼食、飲み物、雨具  
 申込み/9 月 1 日(火)～30 日(水)に電話で  
 主催/資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

### ●さつまいも掘り(試食あり)

公園に隣接する畑で芋掘りの体験です。  
 とき/10 月 25 日(日)10 時～12 時  
 (小雨決行。悪天候の場合翌週に延期)

定員/30 組(申込順) 集合場所/旧金子家住宅前  
 参加費/1 組 1,000 円。1 人で参加の方は他の方と組んでいただく場合があります。  
 持ち物/持ち帰り用の袋、シャベル  
 申込み/10 月 1 日(水)午前 9 時から電話で  
 主催/難波田城公園活用推進協議会、難波田城資料館

### ●拓本体験教室

石碑の文字を和紙に写しとる「拓本」を体験します。色紙に作品として仕上げ、持ち帰れます。  
 とき/10 月 31 日(土)10 時～15 時

会場/講座室  
 定員/8 人(申込順) 参加費/500 円(材料代)  
 持ち物/昼食 申込み/随時。直接または電話で  
 指導/資料館友の会拓本部会

### ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

9 月 27 日(日)おはぎ  
 10 月 25 日(日)ふかし芋  
 11 月 お休み

田舎まんじゅう販売  
 第 1、3 日曜日 10:30～  
 お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)  
 第 2 火曜日 11:30～13:30

他に 11 月 28 日午後 3 時から、しの笛コンサートがあります。詳しくは、広報ふじみ 11 月号をご覧ください。25 日(日)ふかし芋  
 ※各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。



編集・発行/富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665  
 富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間/午前 9 時～午後 5 時  
 ◇公園休園日/なし 開園時間/午前 9 時～午後 6 時(4 月～9 月) 午前 9 時～午後 5 時(10 月～3 月)